

葛城修験とは



葛城二十八宿最初の経塚が立つ、友ヶ島虎島の序品窟へ向かう修験者たち

山に伏し、山に生きる日本独特の宗教、修験道。その祖である役まこと婆塞はさく小角、いわゆる役行者は、大和葛城山の麓、現在の御所市茅原に生まれた。はるか昔の7世紀、飛鳥時代のこと。

修験の聖地として、紀伊半島を縦断する大峯奥駈道が知られるが、それを拓く以前、役行者は、生まれ故郷の山並みに法華経8巻28品を埋めたとされる。埋納した場所は諸説あるものの、和歌山県友ヶ島に始まり、和泉山脈を西から東へ、金剛葛城山地を南から北へ、そして大和川へとつながる長大な道となる。やがてその山並みの各所に行場が生まれ、周辺の人々の暮らしに根付いていった。この山脈を舞台とする修験道を、葛城修験と呼ぶ。役行者が修行した場所、開基した寺院、関わりを持った鬼神ゆかりの地、母公の墓など、興味深い場所も数多い。

昔話ではなく、現代に至るまで受け継がれ、今でも修験者(行者、山伏)らが、祈りをささげ修行する葛城の峰々は、多様な宗教観を持ち自然とともに生きてきた日本人の心のふるさとということもできる。



左ノ犬鳴山七宝龍寺の役行者像

上ノ那智山青岸渡寺、聖護院門跡、三井寺などたくさんさんの碑伝(ひで)が置かれた西ノ行者。碑伝はここで修行をしたという証

葛城修験の道を歩くときの心得

敬虔な気持ちで訪れましょう

経塚をはじめとして、行場や霊蹟は、遠い昔から現代まで、1000年以上にわたり、修験者が祈りをささげている場所です。行楽とは違い、敬虔な気持ちをもって訪れましょう。

地元の方たちとのふれあいを大切にしましょう

葛城修験は、里に近い山々を舞台としており、里の人々の生活や信仰に深く根を下ろしています。修験にまつわる寺社や地藏尊、祠などは地元の人々が、長い間、大切に守り伝えてきたものです。その思いを胸に、地元の人々と出会ったらあいさつを交わしましょう。

実力を考慮してコースを選びましょう

金剛葛城紀泉の山々は、ハイキングや登山の場として親しまれています。紹介コースには厳しい道も含まれており、管理・整備された道とは限りません。登山は自己責任の場です。コース内容をよく確認して、自分の実力に応じたコースを歩きましょう。また、不慮の事故などが起こった場合、一人では対処できないことがあります。できる限り複数で出かけるようにしましょう。

計画をしっかりと練りましょう

コースには、交通が不便で、バスの便数が限られるものがあります。携帯電話が通じない所も多いので、事前に下調べをして、時間に余裕をもって出かけましょう。記載のコースタイムは歩行時間のみで休憩は含まれません。1時間から1時間30分はプラスして計画を立てましょう。登山コースの場合は関係諸機関に登山届を提出しましょう。

登山アプリを活用しましょう

葛城修験の道々は迷いやすい場所なども複数出てきます。紙の地図だけでなく不安な方は、山の中でも現在地などが分かる登山アプリ「YAMAP」等を併用して登山に臨みましょう。

登山装備を準備しましょう

紹介コースは登山となるところがほとんどです。トレッキングシューズ、レインウェアなどの登山用具を準備し、食料、飲料水を十分に携行するようにしましょう。

マナーを守りましょう

訪れる場所は、一般に認知されたハイキング・登山コースばかりではなく、私有地も多く含まれます。ゴミや火の始末はもちろんのこと、騒いだり、コース外のところに立ち入ったりしないようにしましょう。現地で見板などに指示があれば、それに従いましょう。



大阪奈良両県境の自然歩道、ダイヤモンドトレールを歩くことも多い



ロープを頼りにしたり赤テープを目印に歩く場所もある